



お兄ちゃんらしく なりました!

息子の結太は10月で3歳になり、妹の琴弓は9か月になります。2歳3か月違いになります。琴弓が生まれたころは「赤ちゃんねんねさせるうー!」と大騒ぎ。授乳するのも大変なときがありました。今では「ことちゃん」と呼んだり、後ろから抱きついたり、泣いていると「どうしたの?」と言ったりして、ずいぶんとお兄ちゃんらしく気にかけてくれるようになりました。琴弓も結太が遊んでいる姿を見てニコニコと笑っていますが、やはりたたかされると泣きだします。こうして2番目は強くなっていくのかしら。2人の成長はとても楽しみです。いろいろなところへ連れて行きたいし、見せたい。大変だけど楽しい時間になると思うのでパパとママは頑張り続けます。結太のおしゃべりや大声で歌う姿はとても頼もしいかぎりです。毎日の生活の元気の源は、2人の泣き顔、寝顔、そして笑顔です。

本町四丁目 高野かおりさん 33歳



マイ・ガーデニング 花のあふれるけやき平に!

僕は、小さいころから花が大好きで、ガーデニング歴は15年以上になります。ここ、けやき平に越してきたから、花を少しずつ植えて



きました。いまでは柵の垣根の裾全体に150株のインパチェンスやトレリスなどと、100株のサフィニアが咲き乱れています。花を育てていて嬉しいことは、花を通して人と出会えることです。先日も、通りがかりのおばあさんに声をかけられ、花の話や昔の話をしていただき、帰り際に「お兄ちゃんに話しかけて良かったわ、おばあちゃんと話してくれてありがとう」と言っていたきました。これだけの花があると水やりも花殻摘みも大変ですが、きれいに咲いている花を見ると苦労も報われます。将来は建築関係の仕事に就いて、花のあふれる住宅を増やしたいです。



けやき平の都筑 崇さん

KOGA 万華鏡

しかし田中正造はこの遊水地は鉋毒問題を治水問題にすり替えるものと反対します。みずから周辺の河川調査にあたり自然な治水方法を考えます。それは徳川幕府が江戸湾に流れ込んでいた利根川を人口的に東の

古河市の北西にひろがる渡良瀬遊水地は明治末年から藤岡台地を掘って渡良瀬川の流路を赤麻沼へと付け替えて造られたものです。またこの一連の河川改修工事によって、古河城址も消滅し、かつての中田宿も移転を余儀なくされました。

この遊水地計画は田中正造の明治天皇直訴を契機に高まった世論にたいし政府がとった政策といわれます。遊水地を鉋毒溜として東京への流入をおさえると同時に、たび重なる洪水を防ぐという目的でした。



市内宮前町に移築された下宮八幡宮

谷中村は廃村となりましたが谷中のくらしはその先々の土地で息づいているといえます。
(同企画展は10月19日～11月24日)
古河歴史博物館学芸員 鷲尾政市

谷中村はかつて古河藩領の谷中郷とよばれる地帯でした。明治にはいり、このうちの8か村がまとまって谷中村となります。廃村にもない約450戸、人口2700人の住民は次々と移転していきました。最初の移転では古河に121戸と最も多く、藤岡91戸、野木66戸等のほか那須や遠く北海道へも移りました。移転した人々は各地で苦勞しながら新しい生活を築きますが、古河に移転した人々は、もとの村の神社を移築して現在までお祭りをつづけています。

銚子に付け替えたことに無理があり、昔の流れに戻せば遊水地は必要ないと訴えますが、鉋毒の東京流入を恐れてか実現しませんでした。ところで遊水地となり廃村となった谷中村はかつて古河藩領の谷中郷とよばれる地帯でした。明治にはいり、このうちの8か村がまとまって谷中村となります。廃村にもない約450戸、人口2700人の住民は次々と移転していきました。最初の移転では古河に121戸と最も多く、藤岡91戸、野木66戸等のほか那須や遠く北海道へも移りました。移転した人々は各地で苦勞しながら新しい生活を築きますが、古河に移転した人々は、もとの村の神社を移築して現在までお祭りをつづけています。

田中正造と古河町民

秋の企画展に向けて その2

10月1日発行

発行所 / 〒300-8601茨城県古河市長谷町38番地号 古河市役所
発行人 / 古河市長 小久保忠男 編集 / 市民の声をきく課 印刷 / 成田商事株式会社